

様式6

平成17年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)

1. 研究種目名 特定共同研究 (A) 2. 課題番号 2005-A-18
3. 研究課題 (集会) 名 和文: 地殻活動モニタリング手法の高度化
英文: Improvement of technique for monitoring crustal activity
4. 研究期間 平成17年 4月 1日 ~ 平成18年 3月31日
5. 研究場所 地震研究所
6. 研究代表者所属・氏名 防災科学技術研究所・笠原敬司
(地震研究所担当教員名) 卜部 卓
7. 共同研究者・参加者名 (別紙可)
別紙
8. 研究実績報告 (成果) (別紙にて約 1,000 字 A4 版 (縦長) 横書) (別紙に作成)
別紙
- 10・成果公表の方法 (投稿予定の論文タイトル、雑誌名、学会講演、談話会、広報等)
研究集会「データ流通システムの今後について」を 2005 年 7 月 26 日地震研究所にて開催した。

備考

・研究成果を論文等で発表される場合、以下の形式の文章を謝辞等に記載して下さい。

(英語)This study was supported by the Earthquake Research Institute cooperative research program.

(和文)本研究は、東京大学地震研究所共同研究プログラムの援助を受けました。

・特定共同研究 B については、プロジェクト終了年度に冊子による報告書の提出が必要です。

・研究成果について、本所の談話会、セミナー、「広報」での発表を歓迎いたします。

7. 共同研究者・参加者名

研究集会参加者(2005.7.26)

氏名	所属
鷹野 澄	東大地震研
平原 聡	東北大
植平 賢司	九大
中川 茂樹	東大地震研
中山 貴史	東北大
伊藤 武男	名大
小原 一成	防災科研
卜部 卓	東大地震研
山田 守	名大
久保 篤規	高知大
大見 士朗	京大防災研
酒井 慎一	東大地震研
土井 恵治	東大地震研
原田 智史	気象庁
川合亜紀夫	気象庁
一柳 昌義	北大
鶴岡 弘	東大地震研
三浦 哲	東北大
山崎 文人	名大
勝俣 啓	北大・理
小菅 正裕	弘前大・理工
山岡 耕春	東大地震研
八木原 寛	鹿児島大
平田 直	東大地震研

8. 研究実績報告（成果）

「データ流通システムの今後について」をテーマに、2005年7月26日に地震研究所講義室にて研究集会を開催した。まず小原（防災科研）が「防災科研のIP-VPN(EarthLAN)について」と題して、Hi-netで移行を進めているNTTコミュニケーションズによるデータ伝送サービスの内容を紹介した。ユーザー端末の保守のみならずデータの一時保存や到達性の保証も含めた通信サービスであるが、研究志向の大学が利用するには柔軟性や経済性が課題であろう。次に川合（気象庁）が「気象庁における観測・流通ネットワークの現状と展望」として、ナウキャスト対応地震観測点の展開や緊急地震速報の試みを紹介した。続いて、三浦（東北大）と鷹野（地震研）が「JGN2を利用したデータ流通の実験プロジェクトについて」と題して、衛星テレメータシステム縮小後を睨んだ、高速地上回線利用による大学間データ集配信システムの可能性を紹介した。JGN2は研究目的なら無料で利用できる全国規模の超高速広域ネットワークであって、当面東北大、東大、九大、京大等の数大学で共同実験プロジェクトを立ち上げる準備中である。最後に、中川（地震研）が「チャンネル情報の分散管理データベースの提案」として、地震波形データのチャンネル情報・観測点情報のデータベースシステムの開発構想について紹介した。現状では各大学で単純なテキストファイルで管理されていることの多いチャンネル情報を、効率よく統一的に分散管理できるデータベースシステムの早期実用化が望まれる。この研究集会を通して、「衛星テレメータシステム後」を意識した次世代のデータ流通システムがいくつか紹介され、それらの開発・導入状況と課題が議論された。